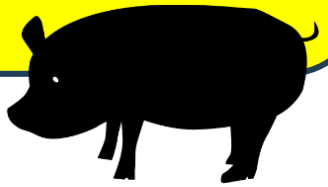
家畜衛生だより

令和８年７月発行 No.11
庄内家畜保健衛生所
庄内地区家畜畜産物衛生指導協会
TEL 0235（68）2151
FAX 0235（66）2466

豚丹毒に気を付けましょう！

豚丹毒は細菌性の家畜伝染病（届出伝染病）です。豚では、扁桃や消化管に存在する菌が、暑熱や輸送ストレス等による抵抗力低下をきっかけに感染発病へと進展するものとされています。これから蒸し暑い夏へと移行し、豚丹毒の発生が危惧される季節です。対策としてワクチン接種の徹底と衛生管理基準に基づいた畜舎環境の改善が推奨されています。



《 ワクチンの計画的実施 》

豚丹毒の対策として、ワクチンの計画的実施が有効です。「生ワクチン」と「不活化ワクチン」の２種類があり、母豚や肥育豚への接種プログラムにより免疫が切れないよう適切な時期に投与しましょう。

項目	生ワクチン	不活化ワクチン
投与部位	皮下注射	筋肉内注射
投与方法	【肉豚】 母豚からの移行抗体を考慮して１～２か月齢時に注射する。 【母豚】 ６か月間隔で補強注射を行う。	【肉豚】 生後４週齢以降に３～５週間隔で２回接種 【母豚】 分娩予定の３週前までに３～５週間隔で２回接種
注意事項	ワクチン株は、薬剤の影響を受けやすいため、投与前３日間～投与後７日間は、影響を与えるような薬剤の投与や飼料添加は避けること。	ワクチンの免疫効果の持続期間は、ワクチンの種類によって18週から26週まで幅があるため、留意が必要です。
	獣医師の処方箋・指示のもと、適切に使用すること。	

《 環 境 対 策 》

〇病気を持ち込まない、広げない。**飼養衛生管理の徹底**を！

〇特に、**豚移動後の豚房は水洗・消毒・十分な乾燥**が重要です。

〇また、**野鳥や野生動物（ネズミ）対策**も再確認しましょう。

《 衛 生 対 策 》

〇日常的に皮膚の赤い発疹（特にひし形）や急な食欲低下、発熱がないか観察します。異常があった場合は**隔離と早期治療**を！

〇定期的な**抗体検査**により豚丹毒菌の感染状況やワクチン抗体付与状況等豚としての状態を把握することが大切です。

〇**人への感染例**があるため、手指の消毒や傷口からの感染に注意しましょう！

チアノーゼ



菱形疹



社団法人　中央畜産会資料より抜粋

家畜に異状が認められた場合は速やかに連絡を！

庄内家畜保健衛生所：0235-68-2151